

地域カーボンニュートラルに資する施設園芸

— オランダと日本の開発状況と連携の展望 —

日時

令和5年9月14日(木) 14:00~16:40

オンライン
配信有参加費
無料

開催趣旨

わが国の農業生産現場では、生産者の高齢化と新たな担い手が不足する状況が継続しており、生産基盤の弱体化が加速しています。さらに施設園芸においては、通年で高い生産性の裏付けとなっている暖房やCO₂施用に用いられてきた化石燃料の使用を2050年までにゼロにする目標が掲げられました。このような情勢に対応するには、地域全体でのカーボンニュートラル(CN)の議論が必要となりますが、その前提として、CNに資する施設園芸・スマート温室を実現する技術革新も求められています。本シンポジウムでは、同様の社会的ニーズの中で世界最先端の技術開発を進めるオランダの状況を共有するとともに、我が国における電化・CO₂高度活用・エネルギー効率の向上を通じた地域CNに資する産官学が連携したイノベーションの現状について紹介します。また、その周辺技術である計測システムやAIデータ解析の先端事例についても触れ、若者が魅力を感じるDXとスマートを可能にする施設園芸の未来を展望します。

《次第》

総合司会：藤内 直道(愛媛大学大学院農学研究科 助教)

14:00 開会の挨拶 寺嶋 一彦(豊橋技術科学大学長)
14:05 シンポジウムの開催趣旨 高山 弘太郎(豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授・愛媛大学大学院農学研究科 教授)

第一部 国際セミナー：カーボンニュートラルと自動化に向けたオランダ・日本の最先端開発動向

14:10 ご挨拶「施設園芸における日本とオランダの連携への期待」 デニズ・ルッツ(駐日オランダ大使館 農務参事官)
14:20 「オランダにおける自動化・知能化に向けた技術開発の動向」【オランダからオンライン】
エルダート・ファン・ヘンテン(ワーゲニンゲン大学 ファーム・テクノロジー・グループ教授)
コンコン・シュン(ワーゲニンゲン大学 ファーム・テクノロジー・グループ助教)
14:45 「脱炭素社会に向けた農山漁村エネルギーマネジメントシステム(VEMS)と
ゼロエネルギーグリーンハウス(ZEG)の開発と展望」
石井 雅久(農研機構農村工学研究部門 資源利用研究領域 地域資源利用・管理グループ長)
後藤 英司(千葉大学大学院園芸学研究院 教授)
15:10 「SPA(スピーキング・プラント・アプローチ)実装型オール電化パイプハウスの開発動向」
高山 弘太郎(前出)、藤内 直道(前出)
15:35 - 15:50(休憩)

第二部 産学連携セミナー：わが国の最先端施設園芸を牽引する産業界の戦略

15:50 「イノチオが推進する最先端施設園芸」 石黒 信生(イノチオアグリ株式会社 代表取締役)
16:05 「シンフォニアテクノロジーが挑戦する計測と制御」
爪 光男(シンフォニアテクノロジー株式会社 コントローラ開発営業室長)
16:20 「ワタパイが提案するパイプハウスの新展開」
田口 昌義(渡辺パイプ株式会社 グリーン事業部商品開発部長)
16:35 閉会の挨拶 橋本 康(日本生物環境工学会 名誉会長・愛媛大学名誉教授)
16:40 閉会

主催 日本生物環境工学会、豊橋技術科学大学

事務局 日本生物環境工学会2023豊橋大会、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリーサーチセンター、愛媛大学植物工場研究センター

後援 駐日オランダ大使館農務部、豊橋市、(一社)日本施設園芸協会、愛媛県農業DX共創会、公益財団法人科学技術交流財団



場所

豊橋技術科学大学 A棟101

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

バス 豊橋駅東口2番のりばから豊鉄バス豊橋技科大線に乗車 「技科大前」で下車 <所要時間約30分>
タクシー 豊橋駅前から南へ8.2km <所要時間約25分>

問い合わせ先

日本生物環境工学会2023豊橋大会事務局

(担当：田中・松田)

E-mail: jsabees2023@is.me.tut.ac.jp

申込締切

令和5年9月11日(月)正午

参加申込フォームより
お申し込みください申込フォーム <https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo1/mpmailec/form.cgi>